

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 4 日 (2007.10.4)

【公開番号】特開 2007-23154 (P2007-23154A)

【公開日】平成 19 年 2 月 1 日 (2007.2.1)

【年通号数】公開・登録公報 2007-004

【出願番号】特願 2005-207071 (P2005-207071)

【国際特許分類】

**C 0 8 F 6/12 (2006.01)**

**C 0 8 F 10/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 F 6/12

C 0 8 F 10/00 5 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 17 日 (2007.8.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

以下の要件 (1) ~ (5) を同時に満たすことを特徴とするオレフィン系重合体粒子。  
 (1) GPC で測定した分子量分布 (Mw / Mn) が 4.0 以下であること、  
 (2) 重合体粒子の最小粒径が 3 μm 以上であり、平均粒径が 20 μm 以上であること、  
 (3) 重合体粒子の灰分が 2000 重量 ppm 以下であること、  
 (4) 重合体粒子の Si 含量が 10 重量 ppm 以下であること、  
 (5) 重合体粒子が、アルミノキサンと下記一般式〔I〕で表わされるジオール化合物との接触物を含むこと。



(上記一般式〔I〕において、R<sup>1</sup>は炭素数 1 ~ 20 のアルキレン基であり、炭素と結合する一つ以上の水素原子が、アリール基、ハロゲン原子、ハロゲン含有炭化水素基またはアシル基で置換されていてもよい。)

【請求項 2】

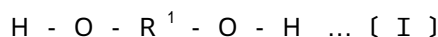
プロピレンから得られる重合体粒子であって、室温での n - デカン可溶成分が 2 wt % 以下であることを特徴とする請求項 1 に記載のオレフィン系重合体粒子。

【請求項 3】

以下の工程 1 を含み、請求項 1 または 2 に記載のオレフィン系重合体粒子を製造することを特徴とするオレフィン系重合体粒子の製造方法；

〔工程 1〕：遷移金属化合物 (A) および、

アルミノキサン (B) と下記一般式〔I〕で表わされるジオール化合物 (C) との接触物、  
 を含むオレフィン重合触媒の存在下で、エチレンと炭素数 3 以上の α - オレフィンから選ばれる一種以上のオレフィンを重合する工程。

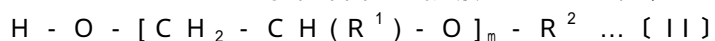


(上記一般式〔I〕において、R<sup>1</sup>は炭素数 1 ~ 20 のアルキレン基であり、炭素と結合する一つ以上の水素原子が、アリール基、ハロゲン原子、ハロゲン含有炭化水素基またはアシル基で置換されていてもよい。)

## 【請求項 4】

前記工程 1 に次いで、以下の工程 2 および工程 3 を順次実施することを特徴とする請求項 3 に記載のオレフィン系重合体粒子の製造方法；

〔工程 2〕：下記一般式〔II〕で表される、分子内に 1 個のアルコール性水酸基を持つポリオキシアルキレン系化合物を接触させる工程、



（上記一般式〔II〕において、 $\text{R}^1$ および $\text{R}^2$ は、炭素数 1 ～ 20 のアルキル基、炭素数 6 ～ 20 のアリール基および炭素数 1 ～ 20 のアシル基から選ばれ、相互に同一でも異なってもよい。 $m$ は平均繰り返し単位数を表わし、1 ～ 100 の範囲である。）

〔工程 3〕：炭素数 5 ～ 10 の脂肪族炭化水素を接触させた後、液相部を除去してオレフィン系重合体粒子部を回収する工程。

## 【請求項 5】

前記工程 1 に次いで、以下の工程 2' および工程 3' を順次実施することを特徴とする請求項 3 に記載のオレフィン系重合体粒子の製造方法；

〔工程 2'〕：炭素数 5 ～ 10 の脂肪族炭化水素に溶解させる工程、

〔工程 3'〕：酸性アルコールと接触させてポリマーを析出させ、オレフィン系重合体粒子部を回収する工程。